

NTTデータ

JAIN SLEE を利用して高性能で耐障害性のある CAM プラットフォームを構築

NTTデータは、ユビキタス・サービス・プラットフォームの1つであるCAM（コンテキスト・アウェアネス・マネジメント）プラットフォームの適用領域拡大とユビキタス環境に対応したサービスプラットフォーム構築を目指して、ニュージーランドのOpen Cloud社との共同研究を行った。具体的にはOpen Cloud社がリードする、テレコム用アプリケーションを開発するための仕様であるJAIN SLEEに関する最新情報の入手や仕様策定への貢献とともに、Open Cloud社が提供する最新のJAIN SLEE準拠アプリケーションサーバ「Rhino（ライノ）」を実行環境としたCAMサービスプラットフォーム構築を実現した。今回の共同研究を通じて、NTTデータは高性能・耐障害性を実現するCAMプラットフォームを構築することが可能になり、スモールスタートからシステム規模拡大までコストの効率よい開発・運用と、高いサービスレベルを要求される様々なビジネス領域への対応を可能にした。

CAMとは、ネットワーク上に点在するさまざまな情報の変化を、システムが自動的に検知・認識した状況（コンテキスト）の変化と捉え、その状況に応じたサービスを提供するためのプラットフォームである。例えば、どうしても連絡を取りたい相手の携帯電話に繋がらないとき、相手が通話可能状態になったことが分かって自動的に電話を掛けなおしてくれるサービスなどがあると便利だが、このようなサービスを提供する場合、電話の状態（待機中、呼出中、通話中、圏外など）を環境情報として解釈し、状態が変化したらそれを自動的に検知して電話をかけ直させるアプリケーションを作動させるシステムを構築しなければならない。

しかし、今回構築されたNTTデータのCAMプラットフォームでは、コンテキストの変化に応じて、他のサービスを連携させる機能だけでなく、携帯電話、固定電話やIP電話などの端末種別や通信方式にかかわらず、同

じコンテキストを利用したサービスの構築が可能となった。そのため、サービス提供者に対して、効率的かつ効果的なシステム構築を支援することができるのである。

NTTデータは以前からアダプターの仕組みとイベント処理に注力したJAIN SLEEの仕様をCAMプラットフォームの実行環境として親和性があると注目していたことから、今回、Open Cloud社と共同研究を行った。その研究成果として、次のような事柄が発表されている。

従来の実行環境と比べてRhinoでは約5倍の処理性能向上を実現し、スケールアウトにより処理性能がさらに向上することを確認した。この性能向上によって、小規模で新サービスを構築するスモールスタートから大規模案件に対応するためのシステム規模拡大まで、より少ないハードウェア投資と運用コストで、効率のよいサービスの提供が可能となる。

また、Rhinoが提供するフォールトトレラント機能による耐障害性がCAMでも実現されることを確認した。このフォールトトレラント機能は、CAMサービスプラットフォームを自動的に多重化し、万一システムに何らかの障害が発生してもサービスを停止せずに継続提供できる仕組みを提供する。この耐障害性が高まることで、テレコミュニケーション分野や金融分野など高いサービスレベルが要求されるビジネス環境でもCAMを適用して容易に新サービスが構築できる。

今後の展開として、NTTデータでは、実証実験等を通じ、CAMプラットフォームのより一層の機能拡充を目指していく。具体的には、テレコミュニケーション分野だけでなく、エンタープライズや金融分野など様々なビジネス領域でCAMを利用した新しいサービスの提案を実施していく。

なお、2005年6月に米国サンフランシスコで行われた「The 2005 JavaOne (SM) Conference In San Francisco」にて、Open Cloud社と共同で今回構築したCAMサービスプラットフォームを活用したデモ展示を行った。

広報室 TEL : 03-5546-8051

コリジェントシステムズ

沖電気と販売代理店契約で合意 日本市場でのCM-100パケットADMの販売体制を拡大

コリジェントシステムズは、2005年6月に、沖電気工業（沖電気）と日本市場において販売代理店契約を締結することで合意した。今回の提携は、世界に先駆けてネットワークのIP化が日本市場で加速化する中、IP化を一台で実現するCM-100パケットADMの需要が高まっていることを反映し、その販路を拡大するためである。

コリジェントシステムズは、世界的な通信機器の大手メーカーとして、キャリア系の企業に対してのさまざまなノウハウや経験と多くの納入実績をもつ沖電気と提携することで、今後伝送技術を熟知した上で顧客対応が可能となると期待している。また、キャリア向けソリューションとして、RPRとMPLSを駆使したコリジェントシステムズのCM-100の技術を活用していくことで、世界で最

も先行している日本のネットワークIP化に貢献していこうとしている。

コリジェントのパケットADMは、日本で第2の規模のサービスプロバイダーであるKDDIに採用されており、既に全国規模でビデオ、音声、およびデータサービスを提供するIPネットワークのトリプルプレーの基礎として各種サービスに貢献し、高く評価されている。またCM-100は、大容量のインテリジェントな伝送ネットワークのニーズや、高性能な音声およびビデオアプリケーションの保証を実行。同時に、優先度の低いトラフィックを効率よく集約したいといった高度なキャリアのニーズに対して、トリプルプレートラフィック、イーサネットサービス、携帯トラフィックのバックホールを自由に組み合わせることで効率よく伝送することで対応するなど、パケット化して最適化する伝送ソリューションとして、進化するIPネットワークの最も重要なコンポーネントになっている。

広報部 高田 TEL : 03-5251-3811

The Future of Packet Transport

・ アプリケーション

- ・ ブロードバンドアクセストラフィックの
アグリゲーション（集約）
- ・ トリプルプレートラフィック
- ・ 局間のメトロトランスポートソリューション
- ・ ワイヤレストラフィックのバックホール

・ サービス

- ・ イーサネットE-LineおよびE-LAN
- ・ イーサネットアグリゲーションおよび
ブロードキャスト/マルチキャスト
- ・ TDM専用線
- ・ VT1.5/VC11およびSTS-1/VC-3/VC-4レベルの
ノンブロッキングクロスコネクタ
- ・ IP/PPP/HDLC、イーサネット、FRのMPLS
トランスポート
- ・ MPLSのエンドツーエンドプロビジョニング

・ テクノロジー

- ・ 10 Gbps RPR
- ・ MPLS擬似ファイバ
- ・ SDH
- ・ イーサネット

コリジェントシステムズ株式会社
〒105-0001
東京都港区虎ノ門 2-7-16
ビュロービル 503
電話：03-5251-3811
ファックス：03-5251-3812
<http://www.comigent.co.jp/>

SAS Institute Japan

JCB が新与信管理システムに 「SAS9 Enterprise BI Server」を導入

国内クレジットカード最大手のジェーシービー(JCB)は、従来からSASと共同で開発を進めてきた同社の新与信管理システムに、新たに「SAS9 Enterprise BI Server (SAS EBIS)」を導入した。これにより、JCBでは、与信モデル・戦略の定常的なトラッキングと機動的な修正が容易となり、経営計画と連動した与信管理の実現と、ポートフォリオレベルでの長期間の収益性を考慮した戦略の立案・実行が可能となった。

JCBでは、経営計画や外部環境に連動した機動的かつ総合的な与信管理の実現と収益向上を目的として、「新与信管理システム構築」プロジェクトを2002年5月に発足させていた。この新与信管理システムは、初期与信、途上与信、回収までの一連の与信管理業務全般を一気通貫で管理することを目指したもので、JCBはSASを導入し、データ整備および各種与信モデルの開発・実装について、SASと共同でプロジェクトを開始していた。

JCBの与信最適化プロセスは、「分析(モデル開発)」「戦略開発」「システム実装」「トラッキング」の4フェーズを循環させることで、より精度の高い与信管理を目指している。新与信管理システムは、「分析(モデル開発)」、「戦略開発」と「トラッキング」のフェーズをサポートする「分析・レポート環境」と、「システム実装」をサポートする「運用環境」を、より効率的に機能分割させることで、「分析(モデル開発)」から「システム実装」までのリードタイムを短縮、分析・レポートの機能を独立した環境に集約することで与信施策効果の継続的な向上を実現、戦略立案者やマネジメント自らが、必要な時に必要な情報にアクセスし、意思決定に利用できる環境を実現した。なお、SAS EBISで強化された新与信管理システムは、2006年1月から本格稼働を開始する予定である。

広報担当 TEL : 03-3533-3780
E-mail : jpnpress@sas.com

シスコシステムズ

朝日新聞社がシスコのIP コミュニケーションを導入 新聞制作のホットラインをIP フォンへと移行

朝日新聞は、シスコシステムズ(シスコ)のIPコミュニケーションを導入した。今回、朝日新聞が導入したのは、全国5拠点の本社・支社・本部と21工場を接続する“ホットライン”においてである。ホットラインとは、各本社、工場間を接続した直通電話のことであり、記事制作から印刷、新聞の配送に至るまでを迅速に遂行するために不可欠な新聞社の生命線ともいえるコミュニケーションシステムである。即時性が求められることはもちろんのこと、使用頻度も極めて高いため、常に“電話が通じる”状態を維持できる高い信頼性が求められてきた。これまでのホットラインは、専用のボタン付き電話機と制御装置、TDMによって構成され、拠点間は専用線で接続されていた。朝日新聞社ではこのシステムを全面的にIP化して、電話機をシスコのIPフォン、制御装置を「Cisco CallManager」、拠点間通信をIPネットワークへと移行していく。

朝日新聞社がこのホットラインをIPコミュニケーションへと移行した背景には、ネットワークシステムの全面的な刷新がある。同社では、2001年4月から「ATOM (Asahi TOveral system of Multimedia)」プロジェクトを推進しており、従来のホストシステムをベースとしていた新聞制作システムをオープン化することで、多様なメディアを通じて読者に情報を提供できる次期システムを構築している。これに伴い全社ネットワークシステムも、既存の専用線を中心としたものから、IPネットワークへと移行し、2003年に「ATOMネット」と呼ばれる社内ネットワークを完成させている。専用線は現在も利用されているが、今後段階的に利用を縮小し、1~2年のうちにIPネットワークへと移行する計画である。今回のホットラインのIP化も専用線から「ATOMネット」への移行に伴って行われるものである。

シスココンタクトセンター TEL : 03-6670-2992
URL <http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

日本オラクル

聖路加国際病院が「Oracle E-Business Suite」により新基幹人事システムを構築

聖路加国際病院は、同院の人事情報を統合的に管理する新基幹人事システムの構築に、「Oracle E-Business Suite」の医療機関向け人事テンプレート「Conkits（コンキッツ）医療版」を採用した。

聖路加国際病院は、これまで現人事システムで行ってきた人事情報の蓄積や給与の管理に加えて、人的資源の最適化を促進し、経営層が病院経営に必要な判断を行えるような戦略的な人事システムを求めていた。そこで、現在、資産として蓄積している人材情報を一元管理し、人材の適材適所への配置や人材育成を充実させるとともに、人事管理コストの低減を実現する新人事基幹システムを構築することを決定した。本システムは、Oracle E-Business Suiteの人事給与管理システム「Oracle Human Resources Management System」をベースに、コミュニケーション・プランニングが開発した、医療機関向け人事テンプレート「Conkits 医療版」を採用しているため、従来の半分の3ヶ月という短期間で構築することが可能である。

新人事システムでは、採用から退職に至るまでの人事情報を履歴情報とともに管理できるため、出入りの多い医療業界特有の煩雑な人事業務が容易になる。また、これまで紙で行っていた職員の目標管理をWebで行うので、個人の目標と考課結果をシステム上で管理することができる。さらに、今まで人事課のみに与えられていたアクセス権を、業務を熟知している各部署の管理職に付与することで、部署ごとのキャリアプラン/マネジメントのサポートをさらに強化でき、人事課の事務処理業務の効率化を推進できるため、人事担当者は、より戦略的な業務に時間を費やすことができるようになる。

コーポレート・コミュニケーション室
URL : <http://www.oracle.co.jp/press/>

アイピーロックス ジャパン

SONOKOが顧客データの外部流出を防止するために情報リスク管理ソリューション「IPLocks」を導入

食品・化粧品製造・販売の大手のSONOKOが、顧客情報の外部流出を防止するために、情報リスク管理プラットフォームのリーディングカンパニーであるIPLocks社のデータベース・セキュリティ管理ソフトウェア「IPLocks」を導入した。IPLocksは、データベースの脆弱性評価、アクセスの自動監視、および監査を行い、データの破壊・改ざん・漏えいなどによる被害を極小化するデータベース・セキュリティ管理ソフトウェアである。既に国内では70社の導入実績をもっている。

SONOKOでは、2004年4月に行った営業支援システムのリニューアルを機に、セキュリティのさらなる強化を図ってきた。創業以来、顧客満足を第一とする「SONOKO基準」に沿った経営を行ってきた同社では、全般的なセキュリティ強化の中でも顧客会員の個人情報保護が最重要課題であると考え、データベース・セキュリティを実現するソフトウェア製品を検討した結果、グローバルに導入実績を誇るIPLocksの採用を決定した。今回、IPLocksを採用した理由として、稼働中のデータベースを止めることなくユーザーからのアクセス監視を実現できること、不審なアクセスが検知されるとリアルタイムにアラートがあがること、監視機能の各種設定やチューニングに柔軟性があること、などがあげられている。

また、IPLocks導入によるセキュリティ強化が高く評価され、日本情報処理開発協会（JIPDEC）からのプライバシーマーク認定が迅速に行われた。SONOKOでは、「IPLocksを利用して社内には存在する数十万名分の顧客会員データベースへのアクセスを監視し、個人情報漏えい対策のさらなる強化を目指します」と語っている。

マーケティング&ビジネスデベロップメント本部
TEL : 03-3507-5805